国際プログラム（短期留学）

■2013 年度

専任教員 2 名（吉田昌平、長谷川健治）が、短期留学コーディネーター（以下、コーディネーター）として、「国際プログラム（短期留学）連絡会」及び学務・国際部国際課と連携し、交換留学が活性化している海外協定大学と連絡調整を行ない、交換留学生の派遣と受入れ、英語による国際交流科目の運営に関わる諸業務を担当している。

１．短期留学生派遣事業

▼17 国 29 大学に 50 名の本学生を派遣した。

派遣国	人数	大学（人数）
アメリカ	12	サンディエゴ州立大学（4）、ジョージア大学（2）、カリフォウニア州立大学サクラメント校（1）、ユタ州立大学（2）、サンノゼ州立大学（2）、ベラミン大学（1）
オーストラリア	8	シドニー工科大学（5）、オーストラリア国立大学（2）、フリンダース大学（1）
フランス	5	リヨン第 3 大学（2）、グルノーブル第 3 大学（2）、パリ大学東クレテイユ校（1）
韓国	4	高麗大学（2）、延世大学（2）
ドイツ	3	アーヘン工科大学衝撃波研究所（1）、オスナブリュック大学（1）、エルフルト大学（1）
中国	3	華東師範大学（3）
マレーシア	2	マラヤ大学（2）
イタリア	2	ピサ大学（2）
スウェーデン	2	ヨンチョピン大学（2）
フィンランド	2	オウル大学（2）
カナダ	1	トロント大学（1）
スペイン	1	グラナダ大学（1）
マルタ共和国	1	マルタ大学
ロシア	1	モスクワ大学アジア・アフリカ言語校（1）
チェコ	1	オストラバ工科大学（1）
ニュージーランド	1	オタゴ大学（1）
ベルギー	1	リエージュ州大学（1）
計	50	

コーディネーターと国際部・国際課が連携し、新規協定校の開拓、協定校との交渉、ショートビジット、サマースクール、留学説明会、留学セミナー、留学ガイダンス、多言語

トークタイム、国際交流科目、サマースクール、TOEFL 対策講座、短期留学生派遣同窓会等の活動を通して派遣留学を推進している。

また、学内重点化競争的経費に申請し、派遣留学生を対象に、危機管理、健康衛生管理、防犯安全対策、現地での修学をテーマとした事前オリエンテーションを 4 回、移動中訓練宿泊研修を 2 回、YCCS 特別プログラムと連携の上で実施した。

２．短期留学生受入れ事業

▼18 国／地域、37 協定大学より 66 名の留学生を受入れた。（25 年度春学期修了者及び秋学期修了者）

派遣国	人数	大学（人数）
英国	11	カーディフ大学（4）、シェフィールド大学（2）、エクセター大学（2）、ノッティンガムトレント大学（2）、エジンバラ大学（1）
アメリカ	11	サンノゼ州立大学（4）、ユタ州立大学（3）、サンディエゴ州立大学（2）、カリフォルニア州立大学サクラメント校（2）
韓国	9	釜慶大学（3）、ソウル市立大学（2）、京畿大学（1）、延世大学（1）、淑明女子大学（1）、嶺南大学（1）
フランス	6	リヨン第 3 大学（2）、パリ大学東クレテイユ校（2）、グルノーブル第 3 大学（2）
ドイツ	5	オスナブリュック大学（4）、アーヘン大学（1）
中国	3	華東師範大学（1）、大連理工大学（1）、山西大学（1）
台湾	3	国立台湾大学（3）
オーストラリア	3	シドニー工科大学（2）、マッコリー大学（1）
ロシア	2	モスクワ大学（2）
ブラジル	2	パラナカトリカ大学（1）、サンパウロ大学（1）
カナダ	2	トロント大学（2）
スペイン	2	グラナダ大学（2）
ニュージーランド	2	オタゴ大学（2）
スウェーデン	1	ヨンチョピン大学（1）
スイス	1	ベルン大学（1）
カナダ	1	サスカチュワン大学（1）
マレーシア	1	マラヤ大学（1）
エジプト	1	カイロ大学（1）
計	66	

コーディネーターは、受入れ留学生を対象に、オリエンテーション、国際交流科目の総括、生活就学上の指導を行っている。また、三井ボランティアネットワークと連携し、一対一の日本人との交流制度を全ての受入れ留学生に提供している。

（吉田昌平）

３．短期留学国際プログラム

本学は、学生交流協定（授業料相互不徴収）を結んでいる諸外国の大学に在籍する学生を半年から 1 年間受入れるために 1997 年 10 月、短期留学国際プログラム（Junior Year Overseas at Yokohama National University: JOY）を開設した。JOY プログラムでは日本語教育に加え、英語による専門科目（国際交流科目）を提供することにより、日本語初級者から上級者の学生を受入可能な体制になっている。本学の大学間協定校数は、JOY プログラム設立当初は 9 カ国 15 大学、平成 26 年 1 月 29 日現在は 40 カ国 94 大学 1 機関である。

JOY プログラムが設立された 1997 年度は、38 名の受入留学生に対し本学からの派遣留学生は僅か 6 名であった。2003 年度から JOY プログラム・コーディネーターが受入のみならず派遣を含めた短期留学国際プログラムを一元コーディネートする体制に移行したこと、また近年における学生派遣可能な交流協定校の増加等により、2013 年度には受入 48 名、派遣 50 名となっている。受入留学生数は 2011 年に大きく減少したが、震災前の規模までに回復している。派遣留学生数はかつてないレベルまでに伸びているが、以下の条件を変えることができれば、さらに数を伸ばしていくことが可能である。

第一に、本学派遣留学生が圧倒的に欧米圏の大学への留学を希望していることである。特にアジアの協定校では、英語によるプログラムも提供しているレベルの高い大学が存在するにも関わらず、総じて受入留学生数が派遣留学生数を大きく上回っている。対策としてアジア関連セミナーの開催、交換留学枠外の短期サマープログラムへの派遣等、アジア留学の関心を高める措置をとってきている。また、2013 年度に第一期生を迎え入れた世宗大学校日本交流プログラム、アジアにおける SS/SV プログラム等との有機的連携を通じてより多くの学生が「留学＝欧米」の枠を超えた思考をもつことが期待される。

第二に、英語圏への派遣留学に必要となる英語力（原則として iBT TOEFL 80 以上）が学生にとって高いハードルとなっており、TOEFL の点数を達成できないために留学を断念せざるを得ないケースが少なくない。対策として、受入留学生が講師を務め、インフォーマルな英語練習の場となっている “Talk Time” を 2004 年度より開始している。昨年度からは、より多くの日本人学生が参加できるよう、開催場所を留学生センターからキャンパス中央に位置する学生センターに移動した。外部講師による TOEFL 対策セミナーも年２回実施し、大学が受講料の一部を負担している。今年度においては、国際交流基金の KAKEHASHI プロジェクトに採択された。23 名の学生が合格発表の 12 月から派遣の 3 月まで定期的に集まり、短期留学コーディネータの指導の下英語によるプレゼンテーションの準備を行った。１月 11 日には米国学生団との合同プレゼンテーションを実施した。（http://www.isc.ynu.ac.jp/hus/exce/10948/）今後もこのようなプログラムを通じて派遣留学の裾野を広げていきたい。

また、受入留学生を主な対象とした英語による専門科目（国際交流科目）の派遣留学希望者による履修を継続的に促進してきた。来年度からは英語による科目の大半が教養教育

科目と位置づけられる予定であり、日本人学生の履修者数のさらなる増加が期待される。このことは本学学生の英語力アップのみならず、留学生専用の授業を履修することによって生じる受入留学生の「出島状態」脱却にもつながる。JOY プログラムと 2013 年に開始した YCCS プログラム、来年度から受入開始する日本語・日本文化研修プログラムとの相乗効果も期待できる。このような「横」のつながりに加え、卒業生との「縦」のつながりも、SNS 等を通じて引き続きサポートしていきたい。SNS の在籍学生・卒業生グループは現在 482 名登録しており、渡日前の留学生もグループに参加し、先輩達と情報交換できる場となっている。このような繋がりを生かし、引き続き多様なニーズをもつ交換留学生にとってさらに魅力的なプログラムを提供できるよう、努めていきたい。

（長谷川健治）